

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年 1月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670800269
法人名	医療法人吉祥会
事業所名	グループホーム美楽居
所在地	出水市平和町347 0996-63-8000 (電話)
自己評価作成日	平成22年10月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kagoshima-kaigonet.com/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4670800269&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市 真砂町54番15号
訪問調査日	平成22年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年理念に沿った年間目標を作り、目標の実現に向けた職員の個別の能力評価、目標を達成するための教育方針を立てている。
職員もスキルアップに対して意欲的で、施設内外の研修、勉強会に意欲的に参加し、資格の取得に積極的に取り組んでいる。
医療面に関しては施設長が医師であり、また病院、老人保健施設と同敷地内にあるので、定期的な受診や24時間体制で体調不良時や急変に対応でき安心をいただいている。
同グループ内の老人保健施設と、リスクマネジメント委員会、クレーム委員会、説具委員会、感染対策委員会、身体拘束廃止委員会などを立ち上げ、定例化や勉強会などを来うことで、意識付けや予防にも積極的に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな田園地帯に平成14年に設立されたホームである。玄関横には手入れの行き届いた自家菜園が設けられ、リビングで和やかにお茶を飲み語り合う利用者や職員の姿が印象的であった。

【優れている点・工夫点】

1. 職員を育成する取り組み

外部の研修への参加を勧め勤務体制の配慮をしたり、法人やホーム内で毎月研修を行っている。また職員個人毎に話し合いを基に評価を行い、具体的な目標を明確にたてることで資格取得や質の向上に向けて職員同士が助け合い、取り組んでいる。

2. 医療との連携

協力医療機関との連携、看護職の配置が充実しており、体調不良の早期発見や24時間体制の医療連携が可能であることは心強い。また、カンファレンスも充実している。

3. ホーム内の雰囲気

職員同士の仲もよく、楽しく仕事をする雰囲気が利用者にも伝わっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域に貢献し、信頼、愛されることを目標にした理念づくりを行い善スタッフがその理念を共有できるように、勉強会や毎日の朝礼で唱和している。	経営方針には「地域の皆様に信頼され」などの言葉を含み、地域に根ざしたサービスを意識できる内容が盛り込まれている。理念や経営方針を掲示するとともに、毎日の朝礼において唱和し、勉強会にて実践にむけて具体的に話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域での買い物や文化祭や行事ごとの参加をしている。	地域の文化祭に出展参加し、公園等へ散歩で出会う地域の方へのあいさつや声かけなどにより関係づくりに力を入れている。学校等との交流会や体験学習・ボランティアの受け入れを行い、日常的に交流が行われている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	今年度職員が認知症キャラバンメイトの講習を受け地域に認知症についての理解を広めようと試みているところである。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在まで特に議題を決めずに座談かという形式で行ってきた。	事業所行事等の報告のみではなく、出席者の意見や助言などがあり、有意義な会になっていることが議事録より確認できる。ただ、開催が不定期で、外部評価等報告について確認できなかった。	今後、2ヶ月に1回の開催を目指し、また外部評価等の報告・改善についても行うことを目標とする意向である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議への参加、事故等の報告、相談、研修案内など協力を仰いでいる。	頻繁に市担当窓口や福祉事務所などへ事務手続きや広報誌の配布・その他の機会に訪問し問題や事故や認定手続きなどの情報交換を行うなど、協働してサービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠を含め身体拘束は一切行っていない。また、年に1回身体拘束や高齢者虐待について研修を行っており、スタッフ全員が身体拘束について正しい理解ができるように努めている	身体拘束廃止委員会を設置するとともにマニュアルを作成し研修を行い、玄関をはじめ各居室に鍵をかけた自由な暮らしの支援を職員の努力で実現している。職員は常に利用者の状態を把握し、外出されるときにはさりげなくついて出たり、見守りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回身体拘束と高齢者虐待について研修を行っている。また、グループ内の老人保健施設と合同で、身体拘束廃止委員会を作り毎月一回の定例会も開催している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度についての勉強会を開催した。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約や介助の際は十分に時間をとり、納得できるように説明や話し合いを行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	同法人の老人保健施設と合同でクレーム委員会を立ち上げ、利用者の方の声に耳を傾ける意識付けとマニュアル作りをしている。また、第三者委員会の設置等を明記している。	重要事項説明書に相談窓口を記載するとともに、家族との茶話会も定期的に関くなど家族が意見や要望を表しやすいような工夫と配慮が感じられる。職員が苦情などを把握した時には苦情処理受付簿や気づきメモ・利用者様の声で他の職員と共有し、必要な場合は職員会議で話し合い、本人や家族に報告するなど速やかな解決を図っている。第三者委員の配置もあり、玄関に掲示されている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営会議・職員会議をそれぞれ月1回開催し、施設長と職員が話し合える機会を設けている。今年度は職員の要望により職員の人数を増やし、夜勤体制を3交代から2交代にした。	朝礼、勉強会、会議時に勤務体制などの話し合いをもったり、気軽に声をかけやすい雰囲気づくりに心がけている。過去に職員からの要望に対し解決にむけて話し合い、改善している。悩みがありそうな職員には個別面談を行い問題解決を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個別の目標管理を作成し、個人の勤務の状態の把握や個別の面接を行い、年度ごとの目標を決定している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>個別の目標管理で、研修の必要性などを把握し、資格取得に対してもバックアップしている。資格取得者に対しては資格手当を支給している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>いずみ川薩支部のグループホーム協議会設立して、スタッフ間の交流や合同の勉強会を開催している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その方の様子を見ながら、必要に応じてゆっくりと話を聞いたり、少し離れて見守りを行っている。そして徐々に信頼関係を構築していきながら、その方の真のニーズの把握ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にはゆっくりと落ち着いた雰囲気の中で、家族の不安や要望が聞けるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来るだけ詳細な情報を把握できるように、主治医等からの情報提供と本人、家族の要望等を考慮して必要なサービスを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	花の手入れ法や畑の収穫時期などを教わったり、地名の由来や昔話など教えてくださっている。また、食器は音を立てずに洗いなさいなど注意を受けることもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	環境に応じては外泊を定期的に進めてみたり、花見や運動会、敬老会など一緒に参加して下さるようお願いしている。また、遠方の家族には手紙や電話を定期的にお願している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方の家の近くのお寺やお店への買い物、また、家族に協力を得ながらなじみの美容室に通うようにしている。	はじめの一步シートや業務日誌を活用し、利用者を支えてくれた人間関係を把握するとともに、関係を継続できるよう面会、電話・手紙の支援や、寺参りや馴染みの店への買い物などの外出支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に洗濯物を畳んだり、体操や散歩などその時々に応じて皆さんでござせる場面づくりをしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の病院等に移る時は詳細なサマリーを出している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族の要望の把握。計画作成担当者だけでなく、スタッフ全員がその方の状態を観察し、カンファレンスを開催している。	利用開始前に本人や家族、関係者からどのように暮らしたいかを聞き、はじめの一步シートなどに記載し、介護計画に活かしている。入居後は日々のかかわりの中で本人の意向をくみ取り、利用者様の声シートで反映されケア会議などの場で職員間の共有をはかっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートに詳細な情報を記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の経過記録、観察をもとにアセスメントを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスには、スタッフのほか、主治医、必要に応じて家族や理学療法士、看護師等の参加もある。	本人、家族、主治医も参加した担当者会議を開き話し合いながら計画を作成している。また、ミーティングで介護支援専門員と職員が話し合い、介護計画を作成することで、職員はすべての利用者の介護計画を意識して日常の介護を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状態を介護経過記録、個人票、診察記録等に記録しているその記録をもとにモニタリング等を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や外出の援助、外食など利用者のニーズに応じて提供している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	5月には地域の小学校に鯉のぼりの見学、田植えや稲刈りの時期の見学、鶴見学など年中行事としている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	管理者が医師であるので、連携は取れている。また、それ以外のかかりつけ医の受診支援も行っている。	かかりつけ医は入居前からかかっている医療機関に本人や家族の意向を大切に決めていく。受診時も適切な治療が受けられるように病院受診表や個人表等で情報提供に努めており、良い関係がつけられている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同敷地内に病院があり何時でも相談や指導を受けられる体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同敷地内に病院があり連携は取れている。また、それ以外の病院に入院の場合も、ソーシャルワーカーの協力を得ながら情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に対するホームの方針を説明し、理解をもらっている。また入居中も必要に応じて、主治医を交えながら相談や話し合いを行っている。	重度化や看取りに対する対応指針を定め、家族に説明し同意をもらっている。また、その後も本人や家族、かかりつけ医と相談し職員の共有も図っている。母体病院と24時間体制で連携がとれ利用者・家族の安心感につながっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命法の講習を毎年行い、急変時のマニュアルも作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	年に2回避難訓練を実施している。また、災害時の手順書等を作成している	夜間想定を含めた避難訓練や消火訓練を行うとともに、マニュアルを作成し研修にも取り組んでいる。非常災害時の必要な備品の管理も法人単位でおこなわれている。地域住民に理解を呼び掛けてはいるものの、参加の確認はできなかった。	次回避難訓練時より、地域を招待する行事に合わせて実施するなど、工夫をして地域住民参加の訓練が出来るよう前向きに取り組む意向である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を大切にするケアを実施するためにパーソンセンタードケアを徹底している。	玄関に方針を掲示し、利用者へは自己決定しやすい言葉かけをするなど人格を尊重する対応を心がけている。また、記録等は事務室の鍵のかかる棚に保管し外来者の目につかないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが働き掛けるケアだけではなく、待つケアの大切さを繰り返しスタッフに話している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはゆるやかに決め、その日の利用者に合わせ自由に変更している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	散髪援助や衣服を把握し必要に応じて家族に補充してもらえるようお願いしている。また、更衣時スタッフが勝手に選ぶのではなく、その方が選べるようなケアを行っている、		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の状態に合わせ、準備や片づけ、いただきますの声かけをお願いしている。	テレビを見ながら食事の希望や食欲を引き出す工夫をしたり、自家菜園で収穫された旬の食材利用や配膳、下膳を一緒に行うなど食への興味を持ってもらうよう配慮している。食事は職員も一緒に会話を楽しみながらとっている。外食も定期的におこなわれ、利用者の食欲増進に工夫がされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事のカロリー計算や摂取量のチェック、水分補給の把握をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方のプライドを傷つけないように、声かけや援助をしている。また、定期的に栄養士の助言も貰っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間ごとの誘導ではなくその方の行動やしぐさから排泄のサインを見逃さずに誘導をしている。	排泄についてのマニュアルが作成され、夜間は個人毎の排泄チェック表が作成され排泄自立へ向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食事の工夫や適度な運動、水分補給など便秘予防に努めている。毎日排便管理を行い、必要に応じて下剤を用いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日午後から入浴の時間にあて、ゆっくりと入浴できるように配慮している。	体調や希望により入浴やシャワーなどの対応ができる。入浴を嫌われる方にはできるだけ声かけや入浴剤など気持ちよく楽しめる工夫がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方によって昼寝を進めたり、寒暖の調整や必要に応じて湯たんぽを使用したりして安眠できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個別に保管しており毎日薬の在庫チェックも行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手芸や、工作 散歩、料理、畑仕事などその方に応じた支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	季節を感じられる場所へのドライブ、家族とともに外出などその方が楽しめる外出ができるように工夫している。	中庭にはテーブルが設置され天気の良い日は外気浴が行われている。また、本人の希望に応じて買い物、外食、ドライブ、寺参りなど戸外に出かけられるように配慮し、気分転換やストレス発散、五感刺激の機会として支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在の利用者の方はお金の保管は難しいので、ホームで管理しているが、一緒に買い物に行った際は、その方に応じては支払いは自分で行ってもらっている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>遠方に住む家族の方には手紙や電話をお願いしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>職員は足音や声のトーンに配慮し利用者にとって騒音にならないように注意している。また換気、や清掃、彩光にも十分に配慮している。</p>	<p>手入れされた自家菜園や中庭、共有空間には絵画や花が飾られ、リビングや廊下は思い思いにくつろぐことができるスペースが確保されている。リビングは日差しが差し込み明るく、心やすらぐ家庭的な雰囲気がただよい、居心地よい空間となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間や、食堂玄関前のスペース、居室など十分な広さを確保している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら使い慣れたものを持ってきていただくようにしているが、利用者の中には自分の家でないのにそれらのものであるのが納得できずにしまいいこんでしまう方もいる。	家族とも相談し一人ひとりの希望や状況に応じて仏壇、家具、枕、ぬいぐるみ、写真など馴染みのあるものを持ち込んでもらい居心地のよい空間となるよう工夫している。	事業所の意向として、より居心地のよい空間をめざして荷物の少なすぎる利用者には家族の理解を深め、利用者の使い慣れた家具等を持ち込んでいただきより家庭的な居室となるよう働きかける計画である。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スロープや手すり、広い廊下など安全面と使い勝手に配慮している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない